

内閣府青年国際交流事業報告書 2021

令和 3 年度

日本・韓国青年親善交流事業

「日韓青年親善交流のつどいオンライン」

日本・中国青年親善交流事業

「日中代表ユースフォーラム」



内閣府

Cabinet Office, Government of Japan

序

内閣府では、日本と諸外国の青年の交流により、青年相互の友好と理解を促進するとともに、青年の国際的視野を広げ、次代を担うにふさわしい国際性を備えた健全な青年を育成することを目的として各種の青年国際交流事業を実施してまいりました。

「日本・中国青年親善交流事業」は、昭和53年（1978年）の日中平和友好条約の締結を記念し、日本と中国両国政府が共同して、昭和54年度から実施しているものであり、また、「日本・韓国青年親善交流事業」は、昭和59年の日韓両国首脳会談における共同声明の趣旨を踏まえ、昭和60年の日韓国交正常化20周年を機に、日本と韓国の両国政府による共同事業として昭和62年度から実施しているものです。両事業は、それぞれ日本と中国、日本と韓国の青年の交流を通じて、青年相互の友好と理解を促進し、日本青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神のかん養と国際協力の実践力を向上させることにより、国際社会で指導性を発揮できる青年を育成するとともに、青年による社会貢献活動に寄与することを目的としています。

本事業は元々、日本の青年を中国及び韓国に派遣し、中国及び韓国の青年を日本に招へいするものですが、今年度はコロナ禍を巡る状況がいまだに予断を許さないことから、昨年度に引き続き、オンラインで開催することとしました。

本事業のプログラムでは、これからの新しい時代にリーダーシップを発揮できる青年の育成を図るため、日本と中国及び日本と韓国の青年によるディスカッションを中心としたオンライン交流をそれぞれ実施しました。

さらに、事業報告会を両事業共同で実施し、オンライン交流で得られた成果を報告するとともに、これまでの事業参加青年による経験や学びといった自身の成長を紹介する機会も設け、より多くの方々に両事業の魅力をお伝えするための広報を行いました。

こうした取組を通じて、参加者の皆様が交流を深め、今後の活動につながる学びを得て、将来にわたりますます活躍されるとともに、広く青少年の方々が本事業を含む国際交流活動への関心を高めていただくことを願っています。

本報告書は、今回のオンライン交流で行ったディスカッション等の様々な活動について記録したものです。この報告書を通じ、事業の意義を御理解いただくとともに、今後一層の御支援をいただければ幸いです。

最後に、本事業の実施にあたり、御協力いただいた関係各位に、心から御礼申し上げます。

令和4年3月

内閣府青年国際交流担当室長

黒瀬 敏文

第Ⅰ章

日本・韓国青年親善交流事業

「日韓青年親善交流のつどいオンライン」

事業概要

<目的>

日本・韓国青年親善交流事業は、昭和 59 年の日韓両国首脳会談における共同声明の趣旨を踏まえ、昭和 60 年の日韓国交正常化 20 周年を機に、両国政府が共同して実施している。

本事業は、日本と韓国の青年の交流を通じて、青年相互の友好と理解を促進し、日本青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神のかん養と国際協力の実践力を向上させることにより、国際社会で指導性を発揮できる青年を育成するとともに、青年による青少年健全育成活動等の社会貢献活動への寄与を目的としている。

令和 3 年度は、コロナ禍を巡る状況がいまだに予断を許さないことから、昨年度に引き続き、オンラインで開催することとした。

<実施概要>

本事業はオンラインにて実施した。

(1) ディスカッションテーマ及びサブテーマ

「ポストコロナ時代の日本と韓国の青年」

(サブテーマ)

- ◆ジェンダー
- ◆デジタル社会
- ◆環境

(2) 日本参加青年の参加資格(主なもの)

- ◆日本の国籍を有すること。
- ◆令和 3 年 4 月 1 日現在、概ね 18 歳以上 30 歳以下の者であること。
- ◆日本の社会、文化等について相当程度の知識を有すること。
- ◆韓国に対して関心と理解があること。
- ◆オンライン事前研修、日本参加青年と韓国参加青年とのオンライン交流、オンラインによる事後研修、オンラインによる事業報告会の全日程に参加できる者であること。
- ◆国際協力等に高い参画意欲を持ち、事業終了後もその経験をいかして国際協力活動、国際的な社会

貢献活動等を活発に行うことが期待できる者であること。

(3) 参加青年人数

日本参加青年 12 名

韓国参加青年 12 名

(韓国参加青年は韓国側が選考)

(4) 日程

◆ 事前研修

➤ 1 日目: 令和 3 年 10 月 24 日(日)

➤ 2 日目: 令和 3 年 10 月 31 日(日)

※両日とも 13:00~17:00 で実施

◆ 韓国参加青年とのオンライン交流「日韓青年親善交流のつどいオンライン」

➤ 1 日目: 令和 3 年 11 月 20 日(土)

➤ 2 日目: 令和 3 年 11 月 21 日(日)

➤ 3 日目: 令和 3 年 12 月 5 日(日)

※全日程において、13:00~17:00 で実施

◆ 事後研修

➤ 令和 3 年 12 月 11 日(土) 13:00~17:00

◆ 事業報告会

➤ 令和 4 年 1 月 16 日(日) 10:00~13:00

※日本・中国青年親善交流事業と合同で実施

※プログラム実施

内閣府との契約により、一般財団法人青少年国際交流推進センターが実施に当たった。

事業日程

<事前研修 1 日目>

令和 3 年 10 月 24 日(日)				
時間			時間枠	内容
13:00	～	13:10	0:10	オープニング
13:10	～	13:20	0:10	「日韓青年親善交流のつどいオンライン」についての説明
13:20	～	13:35	0:15	日本参加青年自己紹介
13:35	～	13:55	0:20	アイスブレイク
13:55	～	14:55	1:00	国際交流をはじめるにあたっての意気込み共有
14:55	～	15:05	0:10	休憩
15:05	～	16:05	1:00	日韓交流の入門講座
16:05	～	16:25	0:20	韓国参加青年との交流に備えてのカジュアルディスカッション
16:25	～	16:35	0:10	グループ内での係決め
16:35	～	17:00	0:25	ディスカッションのサブテーマごとのグループ決め クロージング

<事前研修 2 日目>

令和 3 年 10 月 31 日(日)				
時間			時間枠	内容
13:00	～	13:10	0:10	オープニング、意気込み発表
13:10	～	13:30	0:20	係活動①
13:30	～	14:30	1:00	韓国事情に関する講義
14:30	～	14:50	0:20	韓国事情に関する講義 Q&A
14:50	～	15:00	0:10	休憩
15:00	～	16:10	1:10	韓国参加青年との交流に向けてのディスカッション
16:10	～	16:20	0:10	休憩
16:20	～	16:40	0:20	係活動②
16:40	～	16:50	0:10	事後活動について
16:50	～	17:00	0:10	クロージング

<韓国参加青年とのオンライン交流「日韓青年親善交流のつどいオンライン」Ⅰ日目>

令和3年11月20日(土)				
時間			時間枠	内容
13:00	～	13:20	0:20	開会式 挨拶(ビデオメッセージ) 韓国政府女性家族部 チェ・ソンユ青少年政策官 内閣府青年国際交流担当室 黒瀬敏文室長 参加青年代表挨拶 韓国参加青年代表 日本参加青年代表 スケジュール確認
13:20	～	13:30	0:10	オープニング
13:30	～	14:00	0:30	日韓参加青年自己紹介
14:00	～	14:10	0:10	休憩
14:10	～	15:00	0:50	お互いのライフチャート紹介
15:00	～	15:10	0:10	休憩
15:10	～	16:05	0:55	ディスカッション① ジェンダー1 ジェンダー2 デジタル社会1 デジタル社会2 環境1 環境2
16:05	～	16:15	0:10	休憩
16:15	～	16:20	0:05	日韓参加青年共作の交流ハンドブック紹介
16:20	～	16:50	0:30	韓国参加青年による文化紹介
16:50	～	17:00	0:10	クロージング

<韓国参加青年とのオンライン交流「日韓青年親善交流のつどいオンライン」 2 日目>

令和 3 年 11 月 21 日(日)				
時間			時間枠	内容
13:00	～	13:10	0:10	オープニング
13:10	～	13:30	0:20	チェックイン
13:30	～	14:10	0:40	ディスカッション② ジェンダー1 ジェンダー2 デジタル社会1 デジタル社会2 環境1 環境2
14:10	～	14:20	0:10	休憩
14:20	～	15:00	0:40	ディスカッション③ ジェンダー1 ジェンダー2 デジタル社会1 デジタル社会2 環境1 環境2
15:00	～	15:10	0:10	休憩
15:10	～	15:40	0:30	日本参加青年による文化紹介
15:40	～	15:50	0:10	休憩
15:50	～	16:45	0:55	ホームグループミッションについての説明
16:45	～	17:00	0:15	クロージング

<韓国参加青年とのオンライン交流「日韓青年親善交流のつどいオンライン」 3 日目>

令和 3 年 12 月 5 日(日)				
時間			時間枠	内容
13:00	～	13:05	0:05	オープニング
13:05	～	13:15	0:10	チェックイン
13:15	～	14:45	1:30	ディスカッションの成果発表及び質疑応答 ジェンダー1 ジェンダー2 デジタル社会 1 デジタル社会 2 環境 1 環境 2
14:45	～	15:00	0:15	講評 韓国政府女性家族部青少年活動振興課 内閣府青年国際交流担当室
15:00	～	15:10	0:10	休憩
15:10	～	15:55	0:45	ホームグループミッションの成果発表
15:55	～	16:05	0:10	休憩
16:05	～	16:50	0:45	振り返り
16:50	～	17:00	0:10	閉会式 挨拶(ビデオメッセージ) 韓国青少年活動振興院 政策企画理事 一般財団法人青少年国際交流推進センター 理事長 参加青年による手紙 韓国参加青年 日本参加青年

<事後研修>

令和3年12月11日(土)				
時間			時間枠	内容
13:00	～	13:05	0:05	オープニング スケジュール共有
13:05	～	13:10	0:05	内閣府挨拶
13:10	～	13:25	0:15	チェックイン
13:25	～	13:55	0:30	事業報告会について
13:55	～	14:25	0:30	事後活動について
14:25	～	14:30	0:05	提出物について
14:30	～	14:40	0:10	休憩
14:40	～	15:40	1:00	振り返りワーク①
15:40	～	15:50	0:10	休憩
15:50	～	16:40	0:50	振り返りワーク②
16:40	～	17:00	0:20	運営から日本参加青年へのメッセージ クロージング

<令和3年度日本・中国青年親善交流事業及び日本・韓国青年親善交流事業 事業報告会>

令和4年1月16日(日)				
時間			時間枠	内容
10:00	～	10:10	0:10	オープニング
10:10	～	10:50	0:40	令和3年度日本・中国青年親善交流事業 日本参加青年による報告
10:50	～	11:30	0:40	令和3年度日本・韓国青年親善交流事業 日本参加青年による報告
11:30	～	11:40	0:10	休憩
11:40	～	12:20	0:40	パネルディスカッション
12:20	～	12:40	0:20	内閣府青年国際交流事業概要説明
12:40	～	13:00	0:20	クロージング 日本青年国際交流機構(IYEO)からの講評 ファシリテーター総括 日本参加青年代表メッセージ

事業評価アンケート

Ⅰ 趣旨

日本・韓国青年親善交流事業は、昭和 62 年度に開始された事業である。

本事業は、日本と韓国の青年相互の友好と理解の促進を図ることを目的とし、日本政府と韓国政府の共同事業として名称のとおり両国の友好の象徴として実施しているものである。

また、日本青年の育成の観点から、内閣府青年国際交流事業の共通の目的は「世界各国の青年との交流を通じて相互の友好と理解を促進し、国際的視野を広げ、国際協調の精神のかん養と次代を担うにふさわしい青年を育成する」ことであり、事業参加によりコミュニケーション力や異文化対応力等の能力向上が図られることをねらいとしている。

本年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインにより日本青年と韓国青年との交流プログラム「日本・韓国青年親善交流事業（オンライン）」を実施することとし、日韓参加青年同士のグループ別ディスカッション、文化交流、成果発表等を行った。

今回、本年度事業の成果を測るため、日本参加青年全員を対象として事業終了時にアンケート評価を行うとともに、事前研修及び事後研修時に、能力向上等に関する自己評価の変化について比較調査を行った。

事業終了時のアンケート評価の数値基準は、5段階評価（評価の高い方から5～1）を基本とした。また、日本参加青年の自己評価の変化に関する比較調査については、他の調査との比較の観点から 6 段階評価（評価の高い方から6～1）を基本とした。

Ⅱ 評価結果

1. 事業目的の達成度

①プログラムの満足度

「韓国青年との交流会（日韓青年親善交流のつどいオンライン）をどのように評価しますか」との問いに対して、日本参加青年全員が 5 段階評価の 4（良かった）以上を付け、非常に高い評価であった。

日本参加青年からは、「実際に現地に行かなければ、韓国青年と交流できないと思っていたが、オンラインで気軽に交流できて良かった。」「ホームグループミッションを始め、韓国参加青年と友好を築ける工夫がなされていて良かった。」「2 週間という短い交流期間で発表準備やミッションに追われ、みんなで協力して乗り越えられた。韓国参加青年と毎晩電話で作業したことは忘れられない思い出となった。」などのコメントがあった。

このことからオンライン上であっても、満足度の高い交流事業を実施できることが分かる。

②韓国青年等との相互理解と友好

「この事業を通じて、あなたと韓国の人々の相互理解が深まったと思いますか」及び「この事業を通じて、あなたと韓国の人々との友好が深まったと思いますか」との問いに対して、日本参加青年全員が 5 段階評価の 4（深まったと思う）以上を付け、非常に高い評価であった。

相互理解に関して日本参加青年からは、「ディスカッションでの意見交換やホームグループミッションでの積極的な交流を通して、お互いの意見を共有することで相互理解が深まった。」「日本と韓国は文化的に似ている部分が多いが、ディスカッションを重ねるごとに日韓の文化差を感じる機会も多く、それぞれの良さを感じることができた。」「交流会当日だけでなく、プライベートな時間に両国の文化や学生生活の話ができ、日本と韓国の共通点や相違点を知ることが出来た。」などのコメントがあった。

友好に関しては、「ディスカッションを通して韓国参加青年と仲良くなり、現在も連絡を取り合っている。」「個人的な話をする機会も多く持つことができ、日本人と韓国人という垣根を越えて、個人として交流ができた。」「韓国に住んでいる友人や妹ができた気分であり、今後も Zoom や直接会う約束もしているので、今後も交流を続けていきたい。」などのコメントがあった。

このことから、ディスカッションやホームグループミッションの時間に限らず、プライベートな時間でも交流する時間を持ったことにより、両国の学生生活についてなど、より身近な話題についても日韓の共通点・相違点を理解

する機会があったことが分かる。その結果、韓国青年等に対する相互理解と友好が深まったと考えられる。

③事前研修及び事後研修の満足度

「事前研修及び事後研修をどのように評価しますか」との問いに対して、日本参加青年全員が 5 段階評価の 4（良かった）以上を付け、非常に高い評価であった。

日本参加青年からは、「事前研修で韓国文化について知識を習得できたことにより、韓国参加青年との交流がスムーズに行えた。」「自分自身のことについて改めて考える機会があり、浮かび上がってきた課題や長所を事業の中で、成長させる・成長できたのかを考えることができた。」「事前研修で 7 週間の目標を設定し、他の参加青年に共有することで、常に目標意識を持って行動できた。事後研修では自分だけでなく、他の参加青年と共に成長できたことを実感できた。」などのコメントがあった。

このことから、事前に韓国に関する講義が実際に韓国参加青年と交流する上で有益であったことや、事前研修で目標を定め、事後研修で振り返るといった一連の構造が参加青年の自己成長を大きく促したと考えられる。

2.日本参加青年の成長

①個人の能力の向上

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と事後研修時での能力の成長の変化について 6 段階（6＝十分備えている、5＝備えている、4＝ある程度備えている、3＝あまり備えていない、2＝備えていない、1＝全く備えていない）による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

・「コミュニケーション能力」:

4.5 から 5.0 となり、0.5 ポイントの増。

・「多文化に対応する適応能力」:

4.9 から 5.5 となり、0.6 ポイントの増。

・「チャレンジ精神」:

4.8 から 5.5 となり、0.7 ポイントの増。

・「ディスカッションを通じた問題解決能力」:

4.0 から 4.6 となり、0.6 ポイントの増。

・「企画力」:

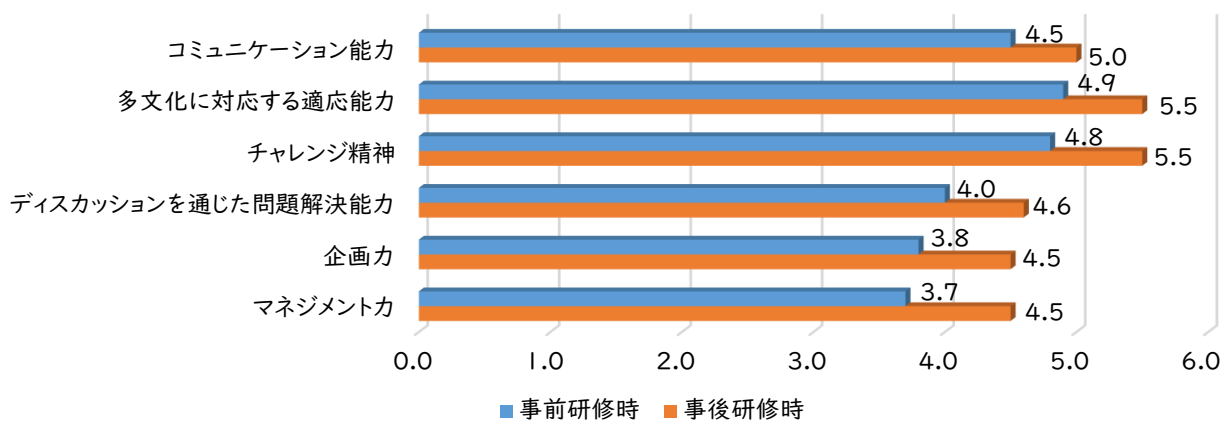
3.8 から 4.5 となり、0.7 ポイントの増。

・「マネジメント力」:

3.7 から 4.5 となり、0.8 ポイントの増。

（ポイント数については、小数第二位を四捨五入）

事業実施前後の能力向上に関する
自己評価の増減(ポイント)



全ての項目において、事前研修時よりも事後研修時の方が自己評価の上昇が確認できる。なかでも、「マネジメント力」が 0.8 ポイント増と項目の中で最も伸び幅が大きかった。本事業ではディスカッションで韓国参加青

年と意見を交換し、異文化から来る考え方の違いに対処したことが要因と考えられるが、加えて、日本参加青年と韓国参加青年合同のグループ活動であるホームグループミッションにおいて、プログラム外の時間においても、積

極的に交流を重ね、限られた時間の中で与えられた課題を遂行するために、役割分担やスケジュール管理を韓国参加青年と合同で行ったこともマネジメント力の上昇の要因だと考察できる。

その他の項目も軒並み上昇していることから、本事業への参加が個人能力を伸ばすための手助けになっていることが分かる。

②個人の意識の変化

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と事後研修時での意識の変化について6段階(6=非常に思う、5=そう思う、4=ややそう思う、3=あまりそう思わない、2=そう思わない、1=全くそう思わない)による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

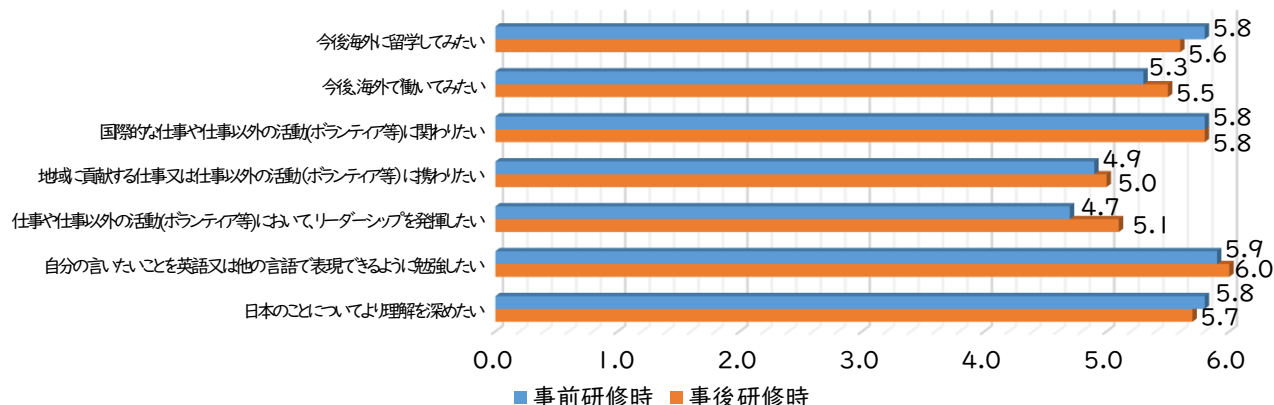
- ・「今後、海外に留学してみたい。」:
5.8 から 5.6 となり、0.2 ポイントの減。
- ・「今後、海外で働いてみたい。」:
5.3 から 5.5 となり、0.2 ポイントの増。
- ・「国際的な仕事や仕事以外の活動(ボランティア等)に関わりたい。」:
5.8 から 5.8 となり、増減なし。

- ・「地域に貢献する仕事又は仕事以外の活動(ボランティア等)に携わりたい。」:
4.9 から 5.0 となり、0.1 ポイントの増。
 - ・「仕事や仕事以外の活動(ボランティア等)において、リーダーシップを発揮したい。」:
4.7 から 5.1 となり、0.4 ポイントの増。
 - ・「自分の言いたいことを英語又は他の言語で表現できるように勉強したい。」:
5.9 から 6.0 となり、0.1 ポイントの増。
 - ・「日本のことについてより理解を深めたい。」:
5.8 から 5.7 となり、0.1 ポイントの減。
- (ポイント数については、小数第二位を四捨五入)

事業参加前から参加青年達の意識が高く、個人意識に大幅な変化は見られないが、「仕事や仕事以外の活動(ボランティア等)において、リーダーシップを発揮したい。」が0.4 ポイント増と上昇を見せた。

グループごとに役割分担を明確に定め、各自がリーダーシップを発揮する機会を設けたことにより、これまでリーダー経験が少なかった青年もリーダーシップを発揮する経験ができたことで、意識の変化が起きたと考察できる。

事業実施前後の能力向上に関する 自己評価の増減(ポイント)



Ⅲ 総括評価

最後に、アンケートから日本参加青年のコメントを抜粋し、今回の総括評価をまとめる。

「事業全体をどのように評価しますか」という問いに対して、日本参加青年全員が 5 段階評価の 4 (良かった) 以上の評価を付け、非常に高い評価であった。

日本参加青年からは、「チームで一つの課題に対して議論する学びと、ミッションを通して仲を深める楽しい活動が両立されていたのが良かった。」「交流事業を通じて韓国人の友人ができるだけでなく、韓国文化を知れて良かった。これらの経験が自分の生活や将来の行動を変えるきっかけとなった。」「オンラインでの開催であり、深い議論や友情を深め合うことが出来なかったと思っていたが、参加青年同士が交流できる時間が十分に取られていたため、想像以上に充実した交流ができた。」などのコメントがあった。

これらのことから、グループで活動する取り組みを充実させることによって、オンラインであっても参加青年同士の友好を深められた結果になったことが考察できる。

「事業参加を通じて、社会貢献活動を始めたい、参加したいという意欲などを持ちましたか」という問いに対して、日本参加青年の 9 割以上が 5 段階評価の 4 (ある程度意欲を持った) 以上の評価を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは、「ディスカッションテーマについて調べたときに、多くの人々に貢献したい気持ちが強くなった。また異文化交流ができたことにより、日本だけでなく、世界に目を向けて社会問題解決に貢献したいと思った。」「韓国のアップサイクル技術を利用して、日本の環境事業を盛り上げたいと思った。」「国際交流事業の持つ力を感じ、この力を次世代に繋げていくことで、より発展した日韓関係を築くことができると思った。」などのコメントがあった。

これらのことから、韓国参加青年とのディスカッションの中で、両国の取り組みや現状を学んだことにより、社会問題に関心を持ち、社会貢献に対しての青年達のモチベーションが上がったことが分かる。

「この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか」との問いに対して、日本参加青年全員が 5 段階評価の 4

(役立つと思う) 以上の評価を付け、非常に高い評価であった。

日本参加青年からは、「コミュニケーション能力を培えたことや、自分自身の潜在能力に気づくことができ、自己分析の大きなきっかけとなった。」「海外に目を向けることで視野が広がり、自分の固定観念に気づくこともできた。自分と自国についても向き合うきっかけにもなり、将来の目標を明確にする機会となった。」「日韓参加青年が集まって議論を行ったことで、改めて日韓関係を真剣に考えるようになり、本事業の影響で進路が定まった。」などのコメントがあった。

これらのことから、本事業で韓国参加青年と交流することを通して、国際的な価値観を身に付けることに繋がったと考察できる。自分自身の可能性に気づくことになり、将来の目標が定まったと感じる参加青年が多く生まれた結果となった。

本事業の目的である「日本と韓国の青年相互の友好と理解の促進」に関して、日本参加青年は、韓国への理解や交流プログラムに対して高い満足度を示している。同プログラムを通じて韓国参加青年との相互理解や友好が深まったという意見も多く、今後の日韓関係発展に寄与することを期待できる青年が多く生まれた。以上のことから、本事業の目的を十分に果たすことができたという評価できよう。

第 2 章

日本・中国青年親善交流事業

「日中代表ユースフォーラム」

事業概要

<目的>

日本・中国青年親善交流事業は、昭和 53 年の日中平和友好条約の締結を記念し、日本及び中華人民共和国（以下「中国」という。）の両国青年の相互の友好と理解の促進を図ることを目的として、両国政府が共同して実施している。

本事業は、日本と中国の青年の交流を通じて、青年相互の友好と理解を促進し、日本青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神のかん養と国際協力の実践力を向上させることにより、国際社会で指導性を発揮できる青年を育成するとともに、青年による青少年育成活動等の社会貢献活動への寄与を目的としている。

令和 3 年度は、コロナ禍を巡る状況がいまだに予断を許さないことから、昨年度に引き続き、オンラインで開催することとした。

<実施概要>

本事業はオンラインにて実施した。

(1) ディスカッションテーマ及びサブテーマ

「地方創生と日中青年の役割」

(サブテーマ)

- ◆働き方
- ◆観光
- ◆ボランティア
- ◆教育
- ◆E コマース

(2) 日本参加青年の参加資格（主なもの）

- ◆日本の国籍を有すること。
- ◆令和 3 年 4 月 1 日現在、概ね 18 歳以上 30 歳以下の者であること。
- ◆日本の社会、文化等について相当程度の知識を有すること。
- ◆中国に対して関心と理解があること。
- ◆オンライン事前研修、日本参加青年と中国参加青年とのオンライン交流、オンラインによる事後研修、オンラインによる事業報告会の全日程に参加できる

者であること。

- ◆国際協力等に高い参画意欲を持ち、事業終了後もその経験をいかして国際協力活動、国際的な社会貢献活動等を活発に行うことが期待できる者であること。

(3) 参加青年人数

日本参加青年 24 名（1 名辞退）

中国参加青年 25 名

（中国参加青年は中国側が選考）

(4) 日程

◆ 事前研修

➤ 1 日目：令和 3 年 10 月 9 日（土）

➤ 2 日目：令和 3 年 10 月 23 日（土）

※両日とも 13:00～17:00 で実施

◆ 中国参加青年とのオンライン交流「日中代表ユースフォーラム」

➤ 令和 3 年 11 月 6 日（土）

※日本時間 11:00～17:30 で実施

◆ 事後研修

➤ 令和 3 年 11 月 13 日（土）13:00～17:00

◆ 事業報告会

➤ 令和 4 年 1 月 16 日（日）10:00～13:00

※日本・韓国青年親善交流事業と合同で実施

※プログラム実施

内閣府との契約により、一般財団法人青少年国際交流推進センターが実施に当たった。

事業日程

<事前研修 1 日目>

令和3年10月9日(土)				
時間			時間枠	内容
13:00	～	13:20	0:20	ガイダンス・チェックイン
13:20	～	14:10	0:50	日本参加青年自己紹介
14:10	～	14:15	0:05	休憩
14:15	～	15:15	1:00	意見交換のテーマに造詣の深い有識者講師による講義・質疑応答
15:15	～	15:20	0:05	休憩
15:20	～	16:40	1:20	中国の社会事情に造詣の深い有識者講師による講義・質疑応答
16:40	～	16:45	0:05	休憩
16:45	～	17:00	0:15	課題説明 クロージング

<事前研修 2 日目>

令和3年10月23日(土)				
時間			時間枠	内容
13:00	～	13:25	0:25	オープニング 課題発表
13:25	～	14:25	1:00	意見交換に関する実践講座・質疑応答
14:25	～	15:55	1:30	本事業の趣旨・理解を深めるための講義・質疑応答
15:55	～	16:05	0:10	事後活動の説明
16:05	～	16:10	0:05	休憩
16:10	～	17:00	0:50	研修の振り返りと役割分担 クロージング

<中国参加青年とのオンライン交流「日中代表ユースフォーラム」>

令和3年11月6日(土)				
日本時間			時間枠	内容
11:00	～	11:15	0:15	開会式 挨拶(ビデオメッセージ) 内閣府青年国際交流担当室 黒瀬敏文室長 中国国際青年交流センター 王義軍書記
11:15	～	11:45	0:30	中国側講師による基調講演 テーマ:「中国の貧困扶助と農村振興」
11:45	～	12:00	0:15	質疑応答
12:00	～	12:15	0:15	休憩
12:15	～	12:45	0:30	日本側講師による基調講演 テーマ:「地方創生と日中青年の役割」
12:45	～	13:00	0:15	質疑応答
13:00	～	14:30	1:30	昼休憩
14:30	～	16:40	2:10	テーマ別意見交換 働き方 観光 ボランティア 教育 Eコマース
16:40	～	17:30	0:50	成果発表 働き方 観光 ボランティア 教育 Eコマース

<事後研修>

令和3年11月13日(土)				
時間			時間枠	内容
13:00	～	13:30	0:30	オープニング チェックイン
13:30	～	15:00	1:30	振り返りワーク(前半)
15:00	～	15:05	0:05	休憩
15:05	～	15:25	0:20	報告会について
15:25	～	15:55	0:30	事後活動について
15:55	～	16:00	0:05	休憩
16:00	～	16:40	0:40	振り返りワーク(後半)
16:40	～	17:00	0:20	チェックアウト 事務連絡

<令和3年度日本・中国青年親善交流事業及び日本・韓国青年親善交流事業 報告会>

令和4年1月16日(日)				
時間			時間枠	内容
10:00	～	10:10	0:10	オープニング
10:10	～	10:50	0:40	令和3年度日本・中国青年親善交流事業 日本参加青年による報告
10:50	～	11:30	0:40	令和3年度日本・韓国青年親善交流事業 日本参加青年による報告
11:30	～	11:40	0:10	休憩
11:40	～	12:20	0:40	パネルディスカッション
12:20	～	12:40	0:20	内閣府青年国際交流事業概要説明
12:40	～	13:00	0:20	クロージング 日本青年国際交流機構(IYEO)からの講評 ファシリテーター総括 日本参加青年代表メッセージ

事業評価アンケート

I 趣旨

日本・中国青年親善交流事業は、昭和 54 年度に開始された事業である。

本事業は、日本と中国の青年相互の友好と理解の促進を図ることを目的とし、日本政府と中国政府の共同事業として名称のとおり両国の友好の象徴として実施しているものである。

また、日本青年の育成の観点から、内閣府青年国際交流事業の共通の目的は「世界各国の青年との交流を通じて相互の友好と理解を促進し、国際的視野を広げ、国際協調の精神のかん養と次代を担うにふさわしい青年を育成する」ことであり、事業参加によりコミュニケーション力や異文化対応力等の能力向上が図られることをねらいとしている。

本年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインにより日本青年と中国青年との交流プログラム「日本・中国青年親善交流事業（オンライン）」を実施することとし、基調講演、日中参加青年同士のグループ別ディスカッション、成果発表等を行った。

今回、本年度事業の成果を測るため、日本参加青年全員を対象として事業終了時にアンケート評価を行うとともに、事前研修及び事後研修時に、能力向上等に関する自己評価の変化について比較調査を行った。

事業終了時のアンケート評価の数値基準は、5段階評価（評価の高い方から5～1）を基本とした。また、日本参加青年の自己評価の変化に関する比較調査については、他の調査との比較の観点から 6 段階評価（評価の高い方から6～1）を基本とした。

II 評価結果

1. 事業目的の達成度

①プログラムの満足度

「中国青年との意見交換会（日中代表ユースフォーラム）をどのように評価しますか」との問いに対して、日本参加青年は 9 割以上が 5 段階評価の 4（良かった）以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは、「専門家の講義と中国参加青年のディスカッションから中国の現状を学ぶことができた。」「留学では決して交流することができなかったような年代・所属の方とディスカッションできたのは、大変良い経験になった。」「中国参加青年と実際に交流する場では、自国を尊重しつつ話さなければいけないなどの外交という面において初めての経験ができた。」などのコメントがあった。

このことからオンライン上であっても、中国参加青年とのディスカッションを通して、知識や友好を深めるだけでなく、日本代表としての振る舞いを経験できたことに価値を見出していることが考察できる。

②中国青年等との相互理解と友好

「この事業を通じて、あなたと中国の人々の相互理解が深まったと思いますか」との問いに対して、日本参加青年の 8 割以上が 5 段階評価の 4（深まったと思う）を付けた。一部の青年は 3（どちらでもない）を付けた。

日本参加青年からは、「中国を訪れた際は文化面のみの交流であったが、中国参加青年と共通の社会問題に関して議論できたことで中国への理解が深まった。」「中国のボランティアについての実体験エピソードを聞いて理解が深まっただけでなく、日本の地方創生についても興味を持ってもらえたので、相互理解が深まったと思う。」などのコメントがあった。一方で「相互理解するためには、少し時間が足らなかった。」というコメントもあった。

このことから、ディスカッションのテーマに沿った日本と中国の現状を具体的なエピソードを交えて、意見を交わしあったことでインターネットでは得られない情報交換ができ、相互理解が深まったと感ぜられる。一方、相互理解には 1 日のみの交流では不十分という意見もあり、中国青年と相互理解を深めるためには課題があることが分かった。

次に「この事業を通じて、あなたと中国の人々との友好が深まったと思いますか」との問いに対して、日本参加青年の 8 割以上が 5 段階評価の 4（深まったと思う）を付けた。一部の青年は 3（どちらでもない）または 2（あまり深まったとは思わない）を付けた。

日本参加青年からは、「文化を誇りに思い語れるまでの知識や熱意がある中国参加青年と関り感銘を受けた。将来の自分の理想像や取り組みたいことが明確になった。」「初めて中国参加青年と話をしたことで、今まで持っていた中国の方に対するイメージが払拭された」などのコメントがあった。一方で「短い期間での交流だったので、深いレベルで友好関係を築く所までに至らなかった。」というコメントもあった。

このことから、同じ志を持った中国参加青年と交流する機会を通して、中国参加青年との友好を深めると良い刺激を受けることができたと考えられる。一方、友好を深めるためには交流時間が不十分という意見もあり、中国参加青年と友好を深めるためには課題があることが分かった。

③事前研修及び事後研修の満足度

「事前研修及び事後研修をどのように評価しますか」との問いに対して、日本参加青年は9割以上が5段階評価の4(良かった)以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは、「事前講義で日中国内の現状や中国人青年について知ることができた。」「事前研修の基調講演では新しい学びを得られ、事後研修ではグループメンバーとの振り返りを通じて、自分自身の新たな一面に気づくことができた。」「事前研修でグループとしての方針決めのヒントを得たことで、発表→議論→成果発表の流れをスムーズに行えた。事後研修まで時間があつたことで、より客観的に振り返ることができた。」などのコメントがあった。

事前研修で中国に関する知識を深めることや中国参加青年と交流する際のマナーを身に付けられたことが、交流会当日に大きな手助けとなったことが分かる。事後研修では、中国参加青年との交流を通して得られた知見や気づきを振り返ることで、自己成長を実感できたと考察できる。

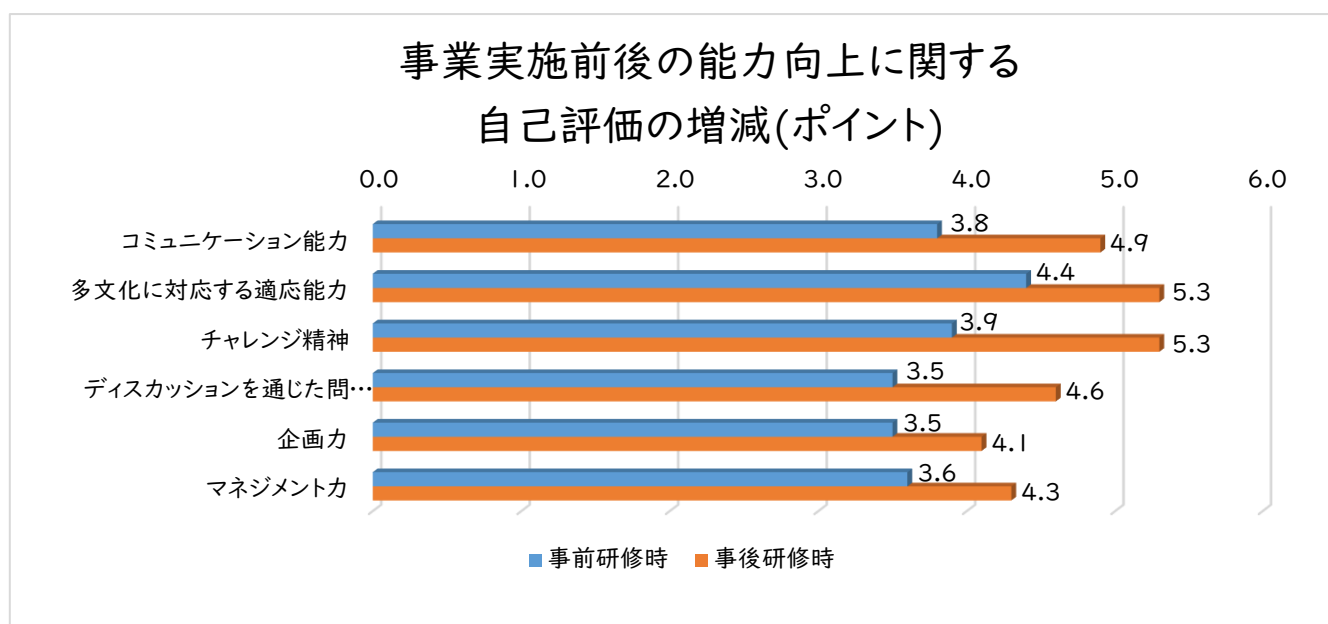
2.日本参加青年の成長

①個人の能力の向上

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と事後研修時での能力の成長の変化について6段階(6=十分備えている、5=備えている、4=ある程度備えている、3=あまり備えていない、2=備えていない、1=全く備えていない)による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

- ・「コミュニケーション能力」:
3.8から4.9となり、1.1ポイントの増。
- ・「多文化に対応する適応能力」:
4.4から5.3となり、0.9ポイントの増。
- ・「チャレンジ精神」:
3.9から5.3となり、1.4ポイントの増。
- ・「ディスカッションを通じた問題解決能力」:
3.5から4.6となり、1.1ポイントの増。
- ・「企画力」:
3.5から4.1となり、0.6ポイントの増。
- ・「マネジメント力」:
3.6から4.3となり、0.7ポイントの増。

(ポイント数については、小数第二位を四捨五入)



全項目において軒並み大幅なポイント上昇が見られた。なかでも、「チャレンジ精神」、「コミュニケーション能力」、「ディスカッションを通じた問題解決能力」は1ポイント以上の上昇があった。

上記項目に共通することとして、中国参加青年の多くが実務経験者や大学院生など、日本参加青年よりもディスカッションのテーマに熟知しているケースが多かった。異文化間でのコミュニケーションに加えて、知識の豊富な中国参加青年と対等にディスカッションを進める努力をしたことが大きな要因だと考察できる。1日のみのオンライン交流ではあるが、本事業への参加がもたらす効果があったことが分かる。

②個人の意識の変化

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と事後研修時での意識の変化について6段階(6=非常に思う、5=そう思う、4=ややそう思う、3=あまりそう思わない、2=そう思わない、1=全くそう思わない)による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

・「今後、海外に留学してみたい。」:

5.7 から 5.8 となり、0.1 ポイントの増。

・「今後、海外で働いてみたい。」:

5.4 から 5.7 となり、0.3 ポイントの増。

・「国際的な仕事や仕事以外の活動(ボランティア等)に関わりたい。」:

5.3 から 5.6 となり、0.3 ポイントの増。

・「地域に貢献する仕事又は仕事以外の活動(ボランティア等)に携わりたい。」:

5.1 から 5.2 となり、0.1 ポイントの増。

・「仕事や仕事以外の活動(ボランティア等)において、リーダーシップを発揮したい。」:

4.8 から 5.1 となり、0.3 ポイントの増。

・「自分の言いたいことを英語又は他の言語で表現できるように勉強したい。」:

5.8 から 6.0 となり、0.2 ポイントの増。

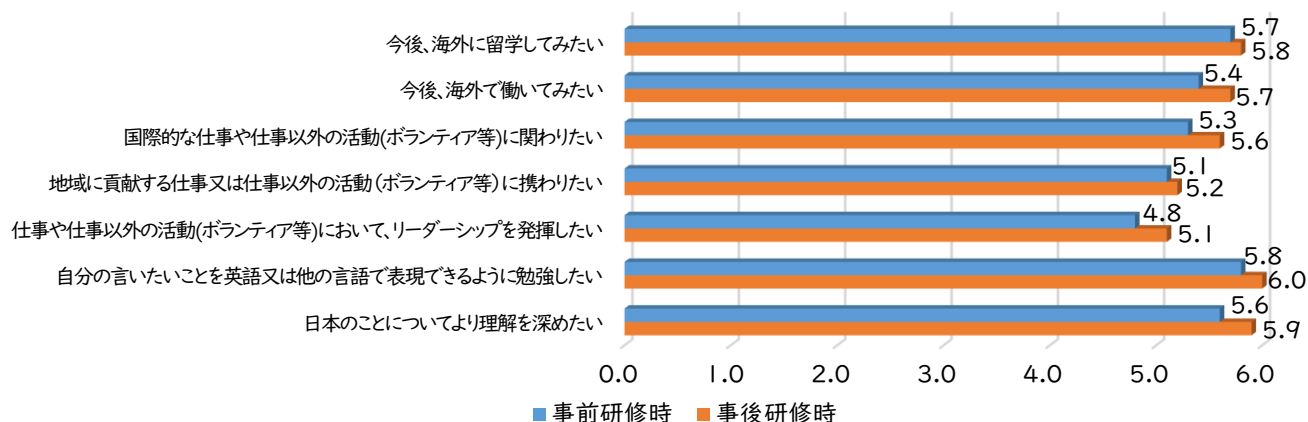
・「日本のことについてより理解を深めたい。」:

5.6 から 5.9 となり、0.3 ポイントの増。

(ポイント数については、小数第二位を四捨五入)

日本参加青年は事業参加前から、設問の内容に対しての意識が高かったようで、事業を通じての大幅な上昇は見られなかった。しかし、全項目のポイントが上昇していることから、本事業が彼らの自己啓発や社会貢献活動への意欲を高めたと言える。

事業実施前後の能力向上に関する 自己評価の増減(ポイント)



Ⅲ 総括評価

最後に、アンケートから日本参加青年のコメントを抜粋し、今回の総括評価をまとめる。

「事業全体をどのように総合評価しますか」との問いに対して、日本参加青年全員が5段階評価中4（良かった）以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは、「自分と同世代の、豊かな経験値をもつ人たちと知り合うことができたことで、自らの活動を反省するとともに、自分自身についての今後の具体的な目標や課題を見つけることができた。」「中国参加青年と交流しリアルな声を聞くことができただけでなく、様々なバックグラウンドを持つ有識者の方と出会うことができたので良かった。」「初めは異なる青年達と議論する中で発言することに抵抗を感じていたが、回を重ねるごとに発言できるようになった。自分達が伝え発信していくことを学び、将来に繋がったと思う。」などのコメントがあった。

このことから、中国参加青年との交流だけでなく、同じ志を持った他の日本参加青年との交流が参加青年自身の自己成長やモチベーションの向上に繋がったと考えられる。

「事業参加を通じて、社会貢献活動を始めたい、参加したいという意欲などを持ちましたか」との問いに対して、日本参加青年の8割以上が5段階評価中4（ある程度意欲を持った）以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは、「地方創生のボランティアを調べていく中で、興味を持った団体が沢山あった。これからは積極的に活動の場を広げていきたい。」「自分の興味の軸は、やはり中国であることを改めて感じた。なかでも日中関係や民間交流の分野で貢献したいと感じた。」「事業参加前は、地方創生を行うには地方移住しか手段が無いと思っていたが、事業を通してボランティアやECなどの方法で地方に貢献できることが分かった。」などのコメントがあった。

これらのことから、中国参加青年とのディスカッションだけでなく、ディスカッションに向けての準備段階で日本の現状について調べていく中で、社会貢献活動への意識が高まり、活動意欲に繋がったと考えられる。

「この事業は、将来に役立つと思いますか」との問いに対して、日本参加青年全員が5段階評価中4（役立つと思う）以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは、「グループ内で自分に何ができるかについて考え行動したことで、自分は何が得意なのかを知ることができた。この経験は今後の活動に活かせる。」「チーム活動を通して、コミュニケーションの大切さや、自分が果たせる役割に気づけた。今後やりたい活動も見つけることができた。」「国の代表として参加青年と協力しながら交流活動に取り組んだことは、自分の自信に繋がった。」などのコメントがあった。

これらのことから、グループで課題に取り組んだことで、「自分には何ができるのか」という問いかけを自分自身に行った青年が多く、自分の長所や眠っている可能性に気づくことができ、青年達は自信を獲得できたと考察できる。

本事業の目的である「日本と中国の相互の友好と理解の促進」に関して、日本参加青年は中国への理解だけでなく、参加青年同士の友好を深めることができた。中国参加青年とのディスカッションを通して、今後の日中関係発展に寄与することを期待できる青年が多く生まれた。以上のことから、本事業の目的を十分に果たすことができたと評価できよう。

内閣府青年国際交流事業報告書2021

令和3年度

日本・韓国青年親善交流事業「日韓青年親善交流のつどいオンライン」

日本・中国青年親善交流事業「日中代表ユースフォーラム」

発行 内閣府

住所：〒100-8914 東京都千代田区永田町 1-6-1

中央合同庁舎第8号館

TEL: 03-6257-1436

FAX: 03-3581-1609

URL: <https://www.cao.go.jp/koryu>

編集 一般財団法人 青少年国際交流推進センター

住所：〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 2-35-14

東京海苔会館 6階

TEL: 03-3249-0767

FAX: 03-3639-2436

URL: <http://www.centerye.org/>

